

景観に配慮した水田整備の類型化

Types of farmland consolidation projects in consideration of landscape

伊藤珠美*, 広田純一**

ITO Tamami*, HIROTA Jun-ichi**

1. はじめに

水田景観は地域固有の文化景観であり、歴史的文化的価値を有している。ところが近代的水田整備は標準区画の考え方に基づいて全国的に均一な区画割を押し進め、結果的に文化景観として水田景観の多様性を損なってきたことは否めない。そうした中で数は少ないが、地域に固有な水田景観に配慮した水田整備を行っている事例がある。

本研究では、景観に配慮した水田整備のあり方を検討する手始めとして、こうした水田整備の事例を収集・整理し、類型化することを目的とする。

2. 研究方法

文献調査により水田整備における景観配慮事例を抽出し、保全した景観と景観要素、景観配慮の具体的方法について整理した。さらに、より詳しい実態を知るために各事業主体の担当者へ聞き取り調査を行った。

3. 景観に配慮した農地整備の実態

保全した景観と景観要素

保全した景観を類型化してみると、保全対象として水田景観に重きをおいたものと、集落景観に重きをおき、その周辺の水田景観を保全したものとに分類できた。さらに、水田景観を保全したものは、全体的な水田景観を対象にしたものと、水田景観の中の特定の景観要素を対象にしたものに分類できた。細かく分類すると、具体的な保全景観は、棚田、クリーク、条里の地割り、荘園景観で、景観要素のとしては畦畔木であった。

景観配慮の具体的方法

区画の整備における景観配慮の方法として、等高線区画や畦抜きによる複数区画の合併

表 1 保全景観の類型化と保全手法

保全対象		保全景観	地区名	主な保全手法
水田景観の保全	全体的水田景観	棚田	長野県姨捨地区	等高線区画, 区画合併
			岐阜県坂折地区	等高線区画, 区画合併
			鹿児島県幸田地区	線形を保全して補修
			大阪府岐尼地区	等高線区画
		クリーク	佐賀県横武地区	クリーク護岸は木柵
			佐賀県兵庫西部地区	棚地、下り田の原形を損なわない整備
	条里の地割り	滋賀県五個荘町	区画の基線を条里の地割りに一致させる	
中世の荘園景観	大分県小崎地区	線形を保全して補修		
景観要素の一部	畦畔木	滋賀県長浜市	畦畔木の移植	
集落景観の保全		現存の集落景観	京都府美里地区	用水系統の維持 集落は建築制限

*岩手大学農学研究科 Graduate School of Agriculture, Iwate University. 水田整備、圃場整備、景観

**岩手大学農学部 Faculty of Agriculture, Iwate University.

が行われている。特に棚田地域で、これらの方法が採用されている。また、条里の地割りを保全した例では、区画の基線を条里地割りに一致させることで条里畦畔を造って区画を定め、これを3等分するという方法で条里の区画を保全している。

農道の整備においては、景観への配慮として農道の線形は現状を残し、できるだけ新設しないという配慮が行われている。しかし、農道を新設しない場合でも、拡幅などの整備は行ったところが多い。また、区画に農道が接していない部分では農道の新設も行われているが、例えば、すべてのクリークに接するなどという工夫がなされている。さらに、特に棚田では農道と区画の間に大きな段差ができ、進入路があってもその傾斜が大きく危険が伴う場合があるが、進入時の安全確保のために農道から直接区画に侵入できるようにし、進入路の解消を目指した例もある。

水路においては、基本的な用水系統を維持しての改修が多い。改修においてはできるだけコンクリート製品を使用せず、石積みや天然木柵を使用することで景観に配慮している。

農村景観の一要素の保全として、圃場整備に伴い畦畔木を移植して保全した例があった。ここでは、整備前には農地内を蛇行する土水路沿いにあった畦畔木の一部について、整備後の排水路沿いに移植したというものである。

また、今回の事例の中で、姨捨地区、坂折地区、幸田地区では、景観として保全する地区、農地として残す地区、自然に戻す地区というようにゾーニングをし、各ゾーンに合わせた整備を行っている。

4.まとめ

景観に配慮した水田整備の実態について、保全景観ごとに類型化し、実際に行われた景観配慮の具体的な方法を明らかにした。景観保全については、その前提として地域での営農が続かなければならない。景観配慮の整備手法の工夫とあわせて今回の事例の中にもあったような保全区域や整備区域をゾーニングするなど、景観に配慮した水田整備を進めていくには、景観保全と営農が両立しうる水田整備のあり方を総合的に考えていくことが重要である。また、建設費と維持管理の費用管理や、農家の合意形成といった重要な問題も残されている。これらを今後の課題としたい。

[引用文献]

- 1) 根井かおる, 三宅康成, 松本康夫: 棚田保全活動の現状と課題, 農村計画論文集 No.1, pp.79~84, 1999.
- 2) 木村和弘: 棚田の保全と整備方式, 農土誌 68(8), pp.57~62, 2000.
- 3) 木村和弘, 内川義行: 棚田保全のための地区区分, 農土誌 70(2), pp.41~46, 2002.
- 4) 上野幸一, 小原敏郎: ピオトープの保全に配慮した棚田地域の整備手法, 農土誌 69(9), pp.19~23, 2001.
- 5) 農業土木学会: ガマのある棚田の保全, 地域環境工学シリーズ 8 食と環境をまもる水田づくり 新しい水田整備工学, p.126, 2002.
- 6) 松本康夫, 高橋強, 増井正哉, 圃場整備に伴う景観保全を意図した農村環境整備計画, 農土誌 62(11), pp.5~9, 1994.
- 7) 正木裕美: 佐賀平野における歴史的形態を留めるクリークの保全と活用, 農土誌 65(12), pp.1~7, 1997.
- 8) 落合基継, 高橋強: 圃場整備と共に実施された景観整備の事例紹介, 農業土木学会大会講演要旨集, pp.784~785, 1998.
- 9) 農業土木学会: 歴史的な水田形状の保全 条里地割りの保全, 地域環境工学シリーズ 8 食と環境をまもる水田づくり 新しい水田整備工学, p.124, 2002.